

2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖で日本の観測史上最大のマグニチュード9.0の大地震が発生しました。この地震により、場所によっては10mを超える大津波が発生し、東北地方の太平洋沿岸部に壊滅的な被害をもたらしました。

家々が流され、あたり一面がれきの山と化した様相は、まるで終戦直後の映像を見ているような、とても信じがたい光景でした。

震災直後は、全てのテレビ局が通常放送を取りやめ、全世界へ被災状況を映し出した映像が繰り返し放送されました。

全国各地で行楽やイベントが自粛され、まるで日本中の時間が止まったかのようでした。

しかし、震災から1か月、2か月と経過するうちに、復興を支援するためのチャリティーイ



笑いで勇気を与えた男  
沖縄のチャップリン

## 小那覇 舞天



### 舞天 (ぶーてん)

おな は ぜん こう  
本名：小那覇 全 孝

職業：歯科医

明治30年生まれ。終戦後石川に移住。「石川小唄」「盗ドゥ万才」「百歳の花風」、古典をアレンジした「スーヤーヌパァパァ」等々、世相を風刺した数々の漫談で戦後の復興に力を注いだ。

イベントが催され始めました。「日本中が元氣を取り戻し、日々の生活を取り戻すことが大切」と、被災地を応援する動きが全国各地に広がっています。

66年前、沖縄でも家を失い、家族を失い、悲しみにくれた時代がありました。

しかし、その失意に暮れる人々の前に「ヌチヌグスージサピラ（命のお祝いをしよう）」と、三線片手に、人々の心に笑いの花を咲かせ、笑顔とともに復興への一歩を踏み出す勇気を与えた人物がいました。

舞天（ぶーてん）という愛称で親しまれ、後に沖縄のチャップリンと呼ばれた小那覇全孝さんがその人です。

終戦直後の昭和20年、旧石川市には、掘建て小屋や仮設住宅が隙間なく立ち並び、戦火に追われたたくさんの人々が集めら